

十二月の御教え

自分の信心が足りないためにおかげを受けられないのを、神のおかげがないように思っている。神はこれが情けなくてならない。

……「天地は語る」第三十五条……

解説

教祖金光大神様は、赤沢文治と名乗った青壮年期に、村人から「信心、文さん」と言われるほど神仏に對して篤い信心をされ、家業も順調でありましたが、親兄弟を始めお子様方を相次いで七くされるといふ不幸に見舞われ、人々からは「あれほど信心してもどうにもならぬものじゃのう」と同情されました。しかし教祖様は、かえって「神様に届かぬのは、自分の信心が足らぬから」と深く省みて、一層信心に励んだ結果、天地の親神様から、お言葉を頂けるほどになられ、そこから数多くの人々を助けられる事になられたのであります。故に私達は「お蔭を頂きたい。」と思えば、この教祖様ののように、自分の信心が足らぬことに気付き、改まり、日々お礼と喜びの生活をする事が出来れば、必ず大きな御蔭を頂くことが出来るのですから、共々に、その稽古を致しましょう。